

## ようこそ 教育長室へ

教育長 高木 秀人

## 1. 全国国府サミット in 市川

5月1日(木)に「国府台遺跡」や「下総国分寺跡附北下瓦窯跡」を教育委員と一緒に拝見しました。今回は、これらの遺跡の紹介とともに、10月18日(土)～19日(日)に開催する「全国国府サミット in 市川」についてお伝えいたします。

## (1) 国府台遺跡

大化の改新の詔によって、日本各地は60余か国に分けて整備され、それぞれの国に「国府(こくふ)」と呼ばれる地方政治の中心が置かれました。飛鳥・奈良時代の海岸線は現代よりも深く入り込んでおり、南端の台地にある国府台は、利根川の下流であった江戸川と東京湾を結ぶ水上交通と、東京湾岸の陸上交通が交わる要衝でした。そのため、国府台に下総国のまつりごとを行う国庁が置かれました。

国庁とその周辺施設を含む「国衙」は、この春にオープンした国府台スタジアムを含む、市川市スポーツセンター周辺にあったとされています。今回は、国府台スタジアムの整備の際に行われた発掘調査で出土した須恵器や土師器などを拝見し、悠久の歴史を感じました。

## (2) 下総国分寺跡附北下瓦窯跡

天平13(741)年、聖武天皇の詔によって、国ごとに「僧寺」と「尼寺」からなる「国分寺」を建立することになりました。下総国分寺は、国分台の南端に「僧寺」と「尼寺」が東西に並んで建立されました。下総国分寺跡は、現在の国分寺とほぼ同じ場所にあります。七重塔は高さ約60メートル(17階建てビルに相当)もあったそうで、遠く東京湾に浮かぶ船からでもよく見えたとのことでした。

北下瓦窯跡は、国分寺の東方向、東京外郭環状道路の沿道にあります。台地の傾斜を利用した窯などが作られ、国庁や国分寺の屋根瓦などを焼いていたようです。拝見した日は、道路側から吹く風が強く、登窯を作るには適した地形であることが実感できました。

## (3) 第6回 全国国府サミット in 市川

このような歴史的背景のある市川市において、全国の「国府が置かれたまち」が参加する、全国国府サミットが開催されます。以下のような開催を予定していますので、ご参加いただけると幸いです。

## ①10月18日(土)13時～市川市文化会館

参加自治体による国府に関連した「まちのPR」や物産展、歴史家の磯田道史氏による講演や「真間の手児奈」に関連した合唱などを実施

## ②10月19日(日)9時～国府関連史跡巡りバスツアー

上述の国府台遺跡(国府台スタジアム)や下総国分寺跡附北下瓦窯跡、市川考古博物館を見学

## 2. 学校給食の無償化

5月に入り、第二中学校と菅野小学校に伺い、児童生徒とともに、学校給食をいただきました。両校とも、栄養価だけでなく、彩りも豊かで、おいしくいただきました。

第二中学校では、トランプ関税など社会全般に関わる話や黒板が低く教卓の陰になって見にくい、といった話を生徒としました。また、菅野小学校では、プロ野球の話を児童としました。

市川市では、国に先んじて、令和5年度から学校給食を無償化しています。「食」は将来にわたる健康の礎であり、毎日の学校給食は、各校の栄養教諭や学校栄養職員が工夫して、献立を作成しています。また、給食便りや学校ウェブサイトを用いて、給食の内容や食の重要性を発信していますので、ご覧ください。